

## 近代建築と自然の調和



新宿、渋谷、六本木など都心のビル街からも、80キロ以上離れた富士山が見える日が増加している。



1960年代、工場排水と生活排水で汚れていた東京の隅田川は、下水道整備により水質が向上した。また、防災上の観点から垂直のコンクリートで固めた護岸であったが、スーパー堤防として、緩傾斜の土盛りを行い、緑化することにより、市民の憩いの空間に生れかわった。



両国の回向院寺院内で始まった大相撲は、日本の国技。年6場所、各場所は15日間の取り組みがある。



上野は、博物館・美術館・大学が立地する日本一の文化ゾーン。それに隣接する谷中は、多くの寺院と昔からの商店街で賑わっている。



大手町や霞ヶ関などのビジネス街の周辺には六本木、赤坂、青山、神楽坂(写真)など、ファッション、レストラン、ホテルが多い。



古都鎌倉は、寺院や庭園や禅、茶道、刀などの伝統文化と、おしゃれなカフェやスイーツなど新しい文化が調和した街である。

都内の商業地域は、各分野ごとに特化して発展し、地域内の同業種の激しい競争が商品開発・品質向上を生む



秋葉原は、大規模な電機店から、小規模な部品販売店まで、数百の電機店が並ぶ。個人でも、ロボットやパソコンなどが作れるのは、この集積があるからだ。



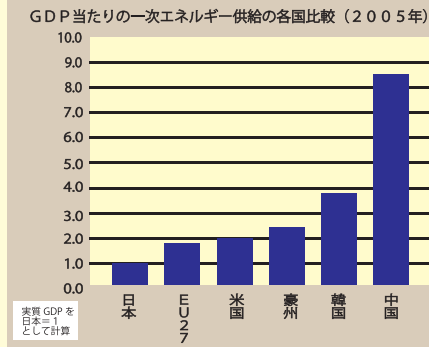
浅草橋は、人形問屋が集中する。合羽橋には、170店以上の食品関連問屋、神保町は160店以上の本屋。月島には80店以上の鉄板焼き店がある。



浅草は、かつて浅草寺や歌舞伎、演芸などで、日本一賑やかな街だった。現在も、祭りやカーニバルなどが年中開催され、江戸風の街づくりが進められている。

## 世界最高水準の省エネルギー

世界の主要先進国で、日本は、GDP当たり、化石燃料の消費が最も少ない。特に、首都圏は、極めてエネルギー効率が良い。それは、街自体の仕組みに理由がある。



## 生活都市

首都圏には、JR、私鉄、地下鉄を合わせて、128本の鉄道路線があり、1日約800万人が、通勤・通学で移動する。他都市と比べ、自動車依存度が少ないので、低エネルギーの理由の一つである。

## 生産都市



川崎火力発電所は、熱効率が59%と、現在、世界最高水準の省エネルギー施設である。また、公害の原因物質である窒素酸化物や硫黄酸化物を完全に除去して大気に放出する設備を備えている。このような各工場、行政、市民の一体となった取り組みにより、川崎は、環境と生産の両立する模範都市に生まれ変わった。



お台場、有明等の東京都臨海副都心は、清掃工場、水処理場、地下の共同溝など、街全体が理想の未来都市を目指す。



ゼロエミッション工業団地では、古紙、金属等再資源化を図る工場が集中しており、廃棄物の再利用、エネルギーの循環利用を図っている。

## 東京は、世界最大の都市

- ◆18世紀前半、人口は100万人と世界最大級の都市(ウィーンは、17万人、パリ50万人)
- ◆現在、東京都と神奈川・千葉・埼玉各県の合計人口3,461万人で首都圏を形成
- ◆城内の総所得(GDP)は、約128兆円。一人当たり平均所得は、372万円。

問い合わせ先(総合): [info@ijcee.com](mailto:info@ijcee.com) 090-1607-5099  
 産業(日・英): [takuruno@yb3.so-net.ne.jp](mailto:takuruno@yb3.so-net.ne.jp) 090-6513-3919  
 産業(日・中): [t.yamada@y5.dion.ne.jp](mailto:t.yamada@y5.dion.ne.jp) 080-6542-9483

◆研究所や環境施設、工場は、非公開の場所が多く、視察できる範囲に限られることが多い。しかし、産業技術は、単に開発研究や特許技術だけにあるのではなく、従業員の訓練や能力・意識、高い品質を求める消費者マインドなど、様々な要因も大切だ。したがって、そうした社会システム全体の説明が不可欠である。

◆日本文化体験交流塾では、英語・中国語・韓国語・フランス語・スペイン語など、100人以上のプロフェッショナルな通訳案内士が所属している。会員は、行政の部長級職員も多く、街づくり公共施設に精通している。また、東芝、富士通等元民間企業の社員も多く、産業観光研究会を設置して、各地の施設の詳細な調査・研究を行っている。

◆こうした実績を踏まえ、視察場所の選定、受け入れなど、教育旅行や産業観光の総合的な受け入れ、コンサル事業を行っている。なお、通訳案内士のガイド料は、半日1万円~1万5千円、1日2万円~3万円である。

市場調査、企画、開発研究、試作品製作が、首都圏内で行えるので、短期間に新商品を開発できる



近郊には、多くの開発拠点があるが、その代表が、つくば市である。約300もの研究機関・企業と約1万3千人の研究者が、基礎から応用まで多様な研究を行っている。



新製品を作るには、試作品が欠かせない。設計図に従い、金属を削り、表面を加工して、部品を作る。少品種で微細な加工技術を持つ企業が、大田区に多い。



臨海副都心には、国際展示場、日本科学未来館(写真)、トヨタ自動車ショールーム(低公害車)などの展示施設が多数立地している。